



【今回のテーマ】

中学校英語教育充実のための指導と評価の改善研修会

11月2日に本研修会を開催し、朝日大学の亀谷みゆき先生からご指導いただきました。研修会の概要をまとめましたので、改めて、授業改善の参考にしてください。

亀谷みゆき先生からご指導いただいたこと

コミュニケーションを行う「必然性」はありますか？

- ① 「話し手」にとっての必然性 → 伝えたい内容がある
- ② 「情報」の必然性 → インフォメーション・ギャップがある
／相手が知らないこと
- ③ 「聞き手」にとっての必然性 → 聞いて意味がある／聞きたくなる

コミュニケーションを行う「目的や場面、状況など」が適切に設定されていますか？

○ (例) 目的や場面、状況などに応じて…

「聞くこと」

- ・(第三者に) 報告するために、相手の意見を聞く
- ・クラスメートと意見交換をするために、相手の意見を聞く

▶ **聞いた情報をどのように処理するか・何を捉えるかが変わる**

「書くこと」

- ・学校のことを知りたいALTに伝えるために、学校行事について書く
- ・クラスメートと思い出を振り返って共感し合うために、学校行事について書く
- ・海外の人に向けて発信するために、学校のHPに学校行事について書く

▶ **何を、どんな順番で、どんな表現の工夫をするかが変わる**

○ 言語活動を行うこと自体が目的にならないように、

毎時間「海外の人に…」 「学校HPに…」 のような大きな目的や場面、状況などでなくとも、付けたい力の育成に向けて

- ・ **英語を使ってコミュニケーションを行う必然性**
- ・ **生徒が本当のことを伝え合うこと**

を意識して言語活動を充実させましょう。

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は両輪

- 「知識及び技能」の習得 と 「思考力、判断力、表現力等」の育成
バランスの取れた育成を！（指導がどちらか一方になっていないか時折振り返る）
- ▶ 「知識及び技能」の習得に向けて
 - ・ パターン・プラクティスにとどまらず、**場面や文脈のある中で指導**
→ **実際のコミュニケーションで活用**できる
 - ▶ 聞くこと・読むことの「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けた指導例
 - ・ 必要な情報とそうでない情報に**整理**する
（時系列・事実と意見・書き手の意図・あらすじ等）
 - ・ 情報と情報の関係を理解する → **各段落の関係を理解**する
 - ▶ 話すこと・書くことの「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けた指導例
 - ・ 何を伝えるかを**考える**
 - ・ 何を伝えるかを**選ぶ（既習事項を取捨選択）**
 - ・ どんな**順番（構成）**で伝えるかを**決める** = **順番を最初に示さない**
 - ・ 表現の仕方を工夫する

全国学力・学習状況調査が示す授業改善のメッセージ

7 「読むこと」

7 次の英文は、しおりさんが英語の授業で「町の図書館」について書いたものです。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Libraries today are more creative than in the past. The library in our town is more creative, too. We can do a lot of things there. We not only read books and watch DVDs at the library, but also enjoy events like book talks, puppet shows, and workshops about making picture books.

There are many kinds of spaces, too. (), people can read books on sofas, on tatami mats or in the library cafeteria. They can relax and read books anywhere. They can use small rooms for studying, meeting, or working.

Our creative library can connect people. One of my friends likes making picture books now after he joined a workshop at the library. He sometimes asks the library staff questions about making picture books by email even now. Also, while some kids are reading together on the tatami mats, their parents can become friends with each other.

I hope all of you visit our creative library in the near future.

- (1) () に当てはまる適切な語句を選ぶ。
= 文と文の関係を正確に読み取る
▶ 接続詞に注目して**前後の文の流れを理解**するなど
- (2) 概要（文章全体の大まかな内容）を選ぶ。
= 各段落から過不足なく情報を捉える
▶ 各段落の**主な内容を整理**するなど

8 「読むこと」→「書くこと」

8 英語の授業で、プラクティスが作成した文章が学習者用編集に送られました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?

- (1) 最も伝えたいことを選ぶ。
= 文章の要点を捉える
▶ 何のために？
= (2) 自分の考えとその理由を書くため
- (2) 質問に対する自分の考えとその理由を書く。
「Do you agree with me? Why or why not?」
▶ 最も伝えたいことを捉えた上で、自分の考えと理由を表現するなど（**領域統合**の言語活動）

単元構想で授業をデザインしていますか？

○単元の目標 = この単元を学習したら（終えたら）、生徒は英語で何ができるようになっているか

○バックワードデザインの単元構想

中学校段階・各学年の学習到達目標

大きな CAN-DO リスト
※中学校段階＝学習指導要領の
各領域の目標

年間指導計画

どこで CAN にするかを示したもの

各単元における目標

小さな CAN-DO リスト
▲「現在進行形を理解することができる」
○「時系列で概要を読み取ることができる」など

評価方法の決定

目標に向けて指導したことを評価

各時間の学習指導計画

単元で目指す生徒の姿から
バックワードデザイン

授業の充実に向けて教師ができること

○教師自身が**英語での「やり取り」**の場数を踏む

→ 生徒と英語で意味のあるやり取りをする

○生徒の**脳が動く発問づくり**に努める

→ 教師自身がトピックに興味を持ち楽しく学ぶ

<即興的な活動の充実に向けて>

○教師が**「やってみせる」**指導から始める

小学校で大切にされていること
だが、中学校でも同様に意識
したいこと

○生徒の話す**内容**に共感したり驚いたり喜んだりする

→ ▲英語が正しく使えていたか
○話されている内容そのものに意識を向ける

○生徒の可能性を信じて、**長いスパンで**、活動に取り組みせたり指導を行ったりし**続ける**

→ ▲質問することができたか、質問に答えることができたか
○活動の成果を確認する

授業づくりの振り返り

1. 目標と指導と評価の一体化に向けて

- 単元の目標（単元が終わった時に生徒は英語で何ができるようになるか）を適切に設定していますか。
- 単元の目標を達成するために必要な指導（どのような活動を入れるのか）を段階を踏んでデザインしていますか。
- 単元の目標が達成されたかを見取る評価になっていますか。

2. 豊かな言語活動に向けて

- 各言語活動が単元の目標に向けて段階的に設定されていますか。
- 生徒の脳が動く（考えることを大切にしたい）言語活動になっていますか。
- 「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」を適切に設定した言語活動になっていますか。
→ 中間指導で何を指導しますか、どう指導しますか。

「話すこと」「書くこと」では、
使用した英語の正確さ（「知識及び技能の習得」）
目的や場面、状況などに応じた表現内容の適切さ
（「思考力、判断力、表現力等の育成」）
の面から、生徒に気づきを促す指導を行う。

亀谷先生からは、学習指導要領の理念や考え方を含め、全国学力・学習状況調査を踏まえた授業づくりについてご指導いただきました。各学校でも、全国学力・学習状況調査から、「どのような力が求められているのか」「生徒はどのような誤答が見られ、どのような指導が必要か」などを改めて見直し、今後の授業改善を図っていきましょう。

<全国学力・学習状況調査（国立教育政策研究所HP）>

【①調査問題等】



【②報告書（授業アイデア例含む）】



【③説明会資料】

